

## 犯罪的な土屋等の策動

政府・空港公団はジェット燃料パイプライン完成が不可能であることを明らかにし、ギブアップ宣言を発した。動労千葉の反合・三里塚ジェット闘争路線にもとづく闘いが「三年間の期限切れ」の「五六・三」を目途に、再度焦点化されようとしている。佐倉支部強化・「再建」策動粉碎の闘いは、この「ジェット燃料貨車輸送二年間延長」策動を前に、さらに緊急の課題となっている。

「ジェット」から逃げることはできない

この間の「佐倉オルグ」の中で明らかになったことは、土屋幹等が「ジェット」の問題について、「動労千葉から離れればジェットの問題から解放される」かのような幻想をふりまいていることである。

しかし、この土屋等の言い方は全くデタラメなウソパチにすぎない。

われわれが好むと好まざるにかかわらず、政府・空港公団が二期工事を強行し、パイプラインが技術的に不可能である以上、「貨車輸送」として佐倉・成田の「職場の問題」とならざるを得ないことは自明である。だからこそ、動労千葉はこの問題を真正面から受け止め「四つの視点」と「二つの戦略」を確立し、組織の存亡をかけた闘いとして三里塚ジェット闘争を闘い抜いてきたのではないか。

反合・三里塚ジェット闘争勝利以外に道はない

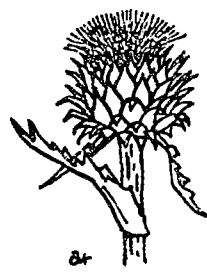
今日、日本階級闘争の中にあって、唯一「三里塚闘争解体」を叫ぶ革マル派は「動労・松崎」を通して、国鉄労働者・佐倉支部組合員を三里塚農民と敵対させようとしている。

土屋等はそのことを百も承知で佐倉支部組合員を革マル派に売り渡そうとしているのだ。

二期工事が完成し、全面開港となれば、鹿島線に一日二十往復ものジェット燃料列車が走るようになるのは目に見えている。土屋等のやっていることは、本人がどう弁解しようが、政府・空港公団がこのような攻撃をしかけてくるときに、革マル派の三里塚敵対方針で国鉄労働者を引きまわそうとする策動の中へ佐倉支部組合員を引きずり込む結果となることは明白であり、このような犯罪的行為を断じて許すことができないのは当然である。

反合・三里塚ジェット闘争を勝利し、二期工事

強行策動を粉碎し、三里塚廃港をかちとる以外に、国鉄労働者も三里塚農民も、真に生きる道はないのだ。



6・25三里塚闘争全国代表者会議開かる

―動労千葉から関川委員長が出席―

六月二十五日、成田市国際文化会館において「三里塚闘争全国代表者会議」が開催された。主催者・空港反対同盟の予想をはるかに越える全国の闘う諸団体の代表三百五十名もが結集し、七九年（八〇年前半）の闘いの飛躍的前進・高揚を勝利的に総括するとともに、今秋の廃港への本格的な戦いにむけた、方針を北原事務局長の基調報告、青行隊からの報告と提案をもとに十時から十七時までの多くの討論の中で全体で意気高く確認した。

動労千葉からは関川委員長が出席し、来年三月の暫定輸送の期限切れを射程においた三里塚・ジェット闘争の歴史的勝利への具体的展望を明らかにし、全体の討論を牽引し、同時に六月二十八日にも予定される裏切り・腐敗分子をかきあつめての「動労千葉地本再建」策動を断固うちきく決意を表明し、反対同盟および全参加団体も六月二十八日に津田沼駅頭大宣伝活動と「三信ビル」糾弾闘争を行うことをはじめ、総力をあげて支援闘争に立つことが確認された。

最後に、七・一三関西新空港建設阻止中央闘争（正午・明治公園）への全力結集も確認し、北原事務局長の閉結ガンバローで熱気のうちに会議を終了した。